

海の男たちの展覧会

鴨川市漁業協同組合 「海の男たちの展覧会」を開く会
代表 熊谷 実

1 地域と漁業の概要

わたしたちの住む千葉県外房地区は、房総半島の南東部に位置し、広大な太平洋に面した自然が豊かな地域である。この地域では磯根漁業のほか、定置網、まき網、一本釣りをおこなう小型船漁業など様々な漁業が盛んである。

2 会の組織および運営

メンバーの条件は「絵の好きな漁師」。定置網、まき網、小型船の漁師で構成されている。現在のメンバーは全部で7名。鴨川が5名、天津小湊町小湊、勝浦市豊浜がそれぞれ1名となっている。

3 活動の動機

絵を描くことが好きだという漁師が知り合い交流を深めていくうちに、絵を描く者にとって夢である「漁師だけのグループ展」を開くことにした。

4 実践活動の状況および成果

○展覧会の様子

わたしたちは平成8年10月1～6日に鴨川市民ギャラリーで2回目の「海の男たちの展覧会」を開いた。展覧会には漁師7名が出展し、26点の絵画を展示した。作品のわきには仕事をしているところの写真と名前、船名などのほかに「私にとって絵とは…」というテーマで自分の思いを一言付け加えた。

水谷龍雄 「私にとって絵とは…夢」

組合の定置網に従事している。油彩画を2点、風景画の大作を出展した。

田丸幸男 「私にとって絵とは…ゆめ」

まき網船で「あいども」の舵を握っている。油彩画を2点。船着場と磯の風景画は独自の色使いが特徴的である。

庄司日出男 「私にとって絵とは…心の支え」

庄司さんはカツオ、スルメイカなどを獲る一本釣りの小型船漁師である。油彩画を5点。二科展に入選したことがあるほどの実力派である。

熊谷 繁 「私にとって絵とは…心のやすらぎ」

同じく小型船の漁師。デッサン画を5点。細いサインペンで描く漁船や海の風景はまるで色がついているかのようである。

吉田友一 「私にとって絵とは…憩いのひととき・やすらぎ」

小湊の小型船漁師。水彩画を4点。バショウカジキが海で跳ねている躍動的な絵とホタル草を描いた植物画は対照的である。

数金一浩 「私にとって絵とは…漁のあいまの息抜き」

豊浜の小型船漁師。今回新たに仲間入りした。油彩画を4点。スクリーンなどの静物画や人物を描いている。

熊谷 実 「私にとって絵とは…自分で作れる世界」

兄繁と兄弟で小型船を操業している。油彩画を4点。昨年妻と旅行したヨーロッパの思い出の風景や地元の海の風景を描いた。

それに以前からこのグループに関わり応援していただいているプロの画家水村喜一郎氏と三石宏幸氏から5点の友情出品があった。

展覧会は初日から盛況で、連日150～400名の方が来場した。新聞やテレビで取り上げられたこともあり、地元「鴨川」のほか、県内各地や東京、神奈川、埼玉から足を運んで来てくれたようである。6日間の入館者数は計1,429名にのぼった。

○活動の経過

わたしたちがはじめて展覧会を開いたのは、平成4年のことである。その5年ほど前に鴨川の5人が人づてに知り合った。知り合ってから、一緒に展覧会を見にいたり、デッサンをしにいたりして交流を深めた。

展覧会を開くことになったのはメンバーの一人が水村喜一郎さんに相談したことがきっかけである。水村さんは鴨川市在住のプロの画家（主体美術協会審査員）で、わたしたちの飲み仲間であり、一番の理解者である。「漁師だけのグループ展を開いてみたい」と相談したところ「やってみたら 協力するよ」と勧められた。

その後、準備に2年をかけ、平成4年6月2～7日にやっと開催にこぎつけた。名前は「海の男たちの展覧会」。場所は鴨川市民ギャラリー。展覧会の噂を聞いて小湊の吉田さんが加わり、友情出品してくれた水村氏、三石氏のものもあわせて約30点の作品を展示した。結果は大盛況、6日間の入館者数は1,493名にのぼった。

それから3年後、再び展覧会をやらないかとグループで相談した。本業は漁師なので毎年展覧会を開くほど絵を描く時間がないが、それでも「いつかもう一度」と3年間で少しは絵を描きためたし、そろそろやってみようかという気持ちになった。

会期は1年後の平成8年10月1～6日。この時期は陽気もいいし、それぞれの漁が比較的ひまな時期にあたるためである。展覧会の宣伝にはポスターと案内状を作成した。

メンバーには1回目の展覧会で知り合った数金さんが加わり、漁師7名で臨んだ展覧会が先ほどのものである。

○展覧会を終えて

展覧会を終えて「疲れた」、「ほっとした」というのが率直な感想である。ただ会場に置いておいた「感想ノート」を拝見させていただくと、

「たまげた！ 絵描きさんが漁業をやっているとは！」

「本当の景色、繊細な感覚、奇をてらうことなく素朴で純真」

「暖かい絵、ほっとする絵、激しい絵、きびしい絵、心の中まではのぞけませんけど、すてきな絵をのぞかせていただきました。ありがとうございました。」

など心温まる励ましの言葉ばかりで、またいつかという気持ちになる。

○絵を描くこと

われわれ外房の漁師は1年中太平洋に昇る朝日を海上で眺めている。日の出る瞬間は

大変美しく、何十年も漁師を続けているが1度として同じ朝日を見ることはない。毎日わたしたちが眺めている沖からの景色は、漁師にしか描けない構図であろう。

沖で漁（大漁）をしたとき、沖で「精一杯漁をしたな」と自分で満足したときなど最高に気分が良くて、どんなに遅く帰ってきてもキャンバスに向かうことができる。また時化で漁にでられなかった日に絵を描く。日の出頃から絵を描くのは実に気持ちがいい。

5 波及効果

わたしたちが展覧会を開いたことで、いくつかの効果があつた。1つめは漁師のイメージアップ。漁師といえば荒々しいという印象だったようだが、見に来てくれた人たちと絵を通してふれあうことにより、多少変わったようである。また展覧会には多くの子供たちも見に来てくれた。この中から将来漁師になろうと思う人が一人でもできたらうれしいと思う。2つめは絵を描く仲間に出会えることである。展覧会を開くことで徐々に仲間が増えてきた。

6 今後について

わたしたちは今後も「海の男たちの展覧会」を続けていきたい。漁師がやることなので何年ごとになどと決めず、「そろそろ絵がたまったかい？」「そうだね。じゃあやろうかい。」というような気楽な気持ちでやりたいと思う。また絵だけでなく工芸や書、などなんでもOKの収集雑多な展覧会をやってみたいと考えている。漁師らしいごたごたした「漁師の文化祭」をやってみたい。

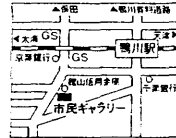
海の男たちの展覧会

漁のあいまに描いた油絵・デッサンなどの絵画展

10月1日(火)～10月6日(日)

鴨川市民ギャラリー

(9:00～17:00) 入場無料



出品者

庄司日出男(高尾丸) 熊谷繁(葺久丸) 水谷龍雄(鱒丸)
 田丸幸雄(共進丸) 熊谷実(喜久丸) 鴨川港
 吉田友一(雅一丸) 小湊港 敷金一浩(金生丸) 豊浜港
 友作出品: 水村吾一郎 三石宏幸

